

## 『技術士第一次試験「建設部門」受験必修キーワード 700』正誤表掲載事項

1) 第 10 章 施工計画、施工設備及び積算 344 ページ 「35. ネットワーク手法」の誤字修正

- 1) 再早開始時刻 → 最早開始時刻
- 2) 再早終了時刻 → 最早終了時刻
- 3) 再遅終了時刻 → 最遅終了時刻
- 4) 再遅開始時刻 → 最遅開始時刻

関連用語 再早開始時刻、再早終了時刻、再遅終了時刻、再遅開始時刻 → 最早開始時刻、最早終了時刻、最遅終了時刻、最遅開始時刻

2) 第 9 章 トンネル 316 ページ 「39. ディープウェル工法」の記載内容修正

### 39. ディープウェル工法

ディープウェル工法は、ウェルポイント工法と同様に強制排水工法のうち真空排水工法に分類される地下水位低下工法の一つをいい、ウェルポイント工法よりも揚水深さの大きい場合に用いられる。ディープウェル工法は、直径 25～50cm の深井戸を掘削して、孔底に高揚程の水中ポンプを設置して湧水を汲み上げるものである。ディープウェルは、本トンネル完成後は、完全に埋戻しておく必要がある。

土かぶりの深い場合には、ウェルポイントやディープウェルを設置するための作業坑(パイロットトンネル)を掘削する場合もある。一般にシルトや砂層にはウェルポイント工法が、砂層や砂礫層にはディープウェル工法が有効である。

〔関連用語〕ウェルポイント工法、強制排水工法、真空排水工法、地下水位低下工法、深井戸、砂層、砂礫層

↓ (以下に修正)

### 39.ディープウェル工法

ディープウェル工法は、排水工法のうち重力排水工法に分類される地下水位低下工法の一つをいい、ウェルポイント工法よりも地下水位が低く、揚水深さの大きい場合で、地盤の透水係数が高い場合に用いられる。ディープウェル工法は、内径 500mm～1000mm 程度の深井戸(ディープウェル)をアースドリルなどの削孔機で掘り下げ、内径 300mm～600mm 程度のケーシングパイプを井戸枠として入れ、外側に粗目の砂等のフィルター材を詰めて、ケーシングに集まる地下水を水中ポンプによって汲み上げるものである。ディープウェルは、本トンネル完成後は、完全に埋戻しておく必要がある。

土かぶりの深い場合には、ウェルポイントやディープウェルを設置するための作業坑(パ

イロットトンネル)を掘削する場合もある。一般にシルトや砂層にはウェルポイント工法が、砂層や砂礫層にはディープウェル工法が有効である。

〔関連用語〕ウェルポイント工法、強制排水工法、真空排水工法、地下水位低下工法、深井戸、砂層、砂礫層

3) 第4章 河川、砂防及び海岸・海洋 145 ページ 「80. 津波」の記載内容一部修正

津波は波高の近傍を除いて、深海部ではゆっくりと伝播し、浅海部にいくほど加速される。

↓ (以下に修正)

津波の速度は、海底までの水深や海岸線の地形に影響を受け、水深が深いほど津波の速度は速い。